

8/30 2011



Japan Music Education Society *News Letter*

第45号

No. 45

日本音楽教育学会ニュースレター

目 次

1 会員の窓	
1-1 新米先生にインタビュー！～茨城県立古河第一高等学校芸術科・秋葉桃子教諭～	2
2 海外トピックス	
2-1 APSMER 報告	4
2-2 APSMER 2011 で発表して	5
3 新刊紹介	
3-1 改訂版 新しい視点で音楽科授業を創る！新学習指導要領を先取りした実践方法	6
3-2 子どものうた弾き歌い ベスト 50 注釈付き	7
4 報告	
4-1 平成 23 年度第 2 回常任理事会報告	8
4-2 役員選挙結果報告	11
4-3 第 20 期日本音楽教育学会東海地区・近畿地区理事再選挙に関する報告	12
4-4 第 20 期理事選挙の一部再選挙について	13
5 お知らせ	
5-1 日本音楽教育学会第 42 回大会（奈良大会）の参加申込みについて	13
5-2 名簿発行に向けてお願い	14
6 事務局より	
6-1 お知らせ	14
編集後記	

1 会員の窓

1-1 新米先生にインタビュー！～茨城県立古河第一高等学校芸術科・秋葉桃子教諭～

夏の暑さがいよいよ本格化してきた6月下旬、JR上野駅から電車で約1時間の茨城県古河にて、着任から約2ヶ月半がたった秋葉桃子先生にお会いしてきました。

—先日の震災で先生ご自身も大変な思いをなさったと思いますが、古河の状況はいかがですか。

古河は地震の影響は割合少なかったようです。実家のある那珂の方では家屋が壊れたり、ライフラインが止まったりしました。飲み水を確保するために3時間並びました。その中で4月からの赴任の準備を進めたという状況でした。

—古河第一高等学校では音楽の授業はどのような位置づけですか。

古河第一高等学校は男女共学ですが、7クラスあるうちの5クラスが商業科という少し特殊な学校です。音楽の授業は1年次の選択のみ、つまり「音楽Ⅰ」しかありません。そのため、本当は2～3年でやるような内容も、1年生にギュッと詰め込んでやるようなカリキュラムを目指しています。2クラス合同ではなくて、1クラスずつ週に1回、2時間続きの授業です。40人学級のうち、15～20人くらいが音楽を選択します（音楽・美術・書道より選択）。

—着任して2ヶ月半が経ちますが、毎日大変ですよ。

平日以外、土曜日は部活で、日曜日は指導案を考えたり教材ビデオを見たりして終わりますね（笑）。でも、私がやりたいと思う内容をやらせていただけるのは幸せです。1日を振り返ると、意外に、困ることよりもよかったなと思うことが一つ、二つあるなあと。充実しています。

—もともと先生を目指されていたのでしょうか。

高校から大学に進学するとき、教育学部に行って先生になりたいなと思いました。学部時代に「もし院を目指すのであれば、音楽専門の人たちがたくさん集まっている所を受けてみたら」とアドヴァイスを受け、大学院に進みました。最初は小学校教師になろうと思っていたのですが、修士論文研究でシニア世代のピアノ・レッスンについて研究を進めるうちに生涯教育に関心を抱き、大人になる一番手前の高校生にとって印象に残る授業が出来たらよいなと思い、今に至りました。その意味で修士からの研究が今につながっていますね。ピアノ演奏についても大学院で学んだことは大きいです。一度、生徒たちの前でコンサートもしましたよ。

—これまでにどんな授業をなさったのでしょうか。

5月までは歌唱の授業をやりました。校歌、合唱曲《コスモス》、教科書に載っている《見上げてごらん夜の星を》、《涙そうそう》などをやりました。地震の影響もあって「心をこめて歌おう」ということを大事にしました。生徒たちはカラオケにはよく行くようですが、カラオケではマイクを通すので、声が小さい。息が浅くなってしまうので、《見上げてごらん…》などでは息を長くして歌うようにと心がけました。

—最近では。

最近「ラップ作り」をやりました。グループごとにテーマを決めて、言葉をカードに書いていき、さらに言葉の下にリズムを書いていきます。みんな耳コピーは速いが、自分が歌っているリズムがどんなリズムかは全然わからないんですよ（笑）。考える手助けにしたいと思って、「今日も」「いつまでたっても」等の言葉を、70個くらい例示しました。それを使ってもいいし、自分たちで考えてもいいということにしましたが、私が作った言葉とリンクしないテーマのグループはほとんど自分たちで考えたようです。また、ヒルクライムの《春夏秋冬》を聴いて、言葉のリズムや、韻の踏み方の工夫なども学びました。

5週目に行った班ごとの発表では、バックにビート音を流してそれに乗りながら行いました。歌唱ではまったく歌わなかった生徒がノリノリでやっていたのにはビックリしました。他の生

徒たちもそれを評価していて、そういうところがよかったですね。言葉のリズムについては、例えば、「犬の散歩」というテーマのグループは、最初の犬と戯れている場面では4分音符、8分音符に当てはめる。でも、散歩になって犬が走り出すと、16分音符に当てはめるなど、同じ言葉を言うにも、8分音符2個に当てはめるのと、16分音符4個に当てはめるのでスピード感が違うということに気付いたようです。つまり、1拍の中に多くのシラブルを詰め込むということでしょうか。

ーラップ作り、とても興味深いですね。何かヒントになるような実践があったのでしょうか。

この活動は指導教官からの示唆をもとに考案したものです。茨城県では初任者に対して、指導教官が1名つくことになっています。困ったことをすぐに相談したり、悩みを打ち明けたりできるのでとてもありがたいです。

創作に関して言うと、教科書では、ある曲の中間部のリズムのみを作るという設定になっていました。でも私としては、なるべく生徒が一から作れるものでやってみたかったです。最初は旋律と歌詞を作るような活動を考えていたのですが、これは現状では難しいかなと思いました。そこで、今流行りの音楽ではリズム重視のものも多いので、ではラップでやってみるか…と。

ー授業ではどんなことを目指していますか。

生徒たちを見ていると、グループ活動や共同作業が苦手なように思いました。休み時間も一人で携帯電話をいじっていることの方が多いんですよね。「個」にこもりがちというか…。授業のまとめプリントで一人ひとりとコメントのやりとりをしていますが、それを見ると、授業中には発言しないけれど、いろんなことに気づいたり、しっかりとした考えをもっていたりする。なのに、授業では自分をなかなか出さなかったり、意見を言い合えたりできないような状況です。商業関係の資格検定や他の授業では個人作業が多いので、音楽でこのあたりをやっていけないかなと。それから、読譜にもある程度親しんでほしいですね。耳コピーとは少し視点の異なる音楽の世界も体験させたいです。

ー今後の予定をお聞かせください。

夏からは器楽（ギター、キーボード）に取り組む予定です。そのあと日本の音楽として、お箏と歌舞伎。最後に、オペラとミュージカルを一つずつ鑑賞できたらなあ。とにかく生徒が授業を受けるのは1年間なので、出来るだけのことはやらせてあげたいと考えています。

ー今後取り組んでいきたいことや、こんな先生になりたい…というのがありますか。

とにかく「印象に残る授業を！」ということでしょうか。そのためには授業だけでなく、生の音楽（演奏会）を聴かせたいですね。そして生徒たちには、自分の意見を表明し、意見を言い合い、共有できるようになってほしいです。そのために授業をいろいろ工夫したいです。



秋葉桃子（あきばももこ）先生

茨城県那珂市出身。茨城大学教育学部卒業、東京芸術大学大学院音楽研究科音楽文化専攻音楽教育研究分野修了。修士論文のテーマは「音楽教室におけるシニアのピアノ学習の実際―つまずきとその改善方法に着目して―」。2011年4月、茨城県立古河第一高等学校芸術科音楽教諭に着任。好きな言葉は『善因善果』、この言葉を胸に、日々勉強です！

（写真：音楽室にて）

【取材を終えて】

勤務校では1年次しか授業がないとのことで、何度も「生徒たちの印象に残る授業を！」と話されていたのが印象的でした。インタビューでは、授業でも活用するという「iPad 2」で子どもたちのグループ作業や発表などの様子も見せていただきました。今度は是非、授業の見学にうかがいます。（文責：大沼寛子）

2 海外トピックス

2-1 APSMER報告

志民 一成（静岡大学）

2011年7月4日～6日に台湾・台北にて行われた APSMER（アジア太平洋地域音楽教育研究大会）に参加しました。台北に到着した直後に激しい夕立に遭い、その後の強烈な蒸し暑さに、これから数日間の滞在が思いやられましたが、翌日からは、暑いながらもとても良い天気恵まれました。

大会は、台北市の中心地区、中正紀念堂近くにある台北市立教育大学にて開催されました。オープニング・コンサートは、台北市立教育大学の素晴らしい学生オーケストラの演奏で開幕

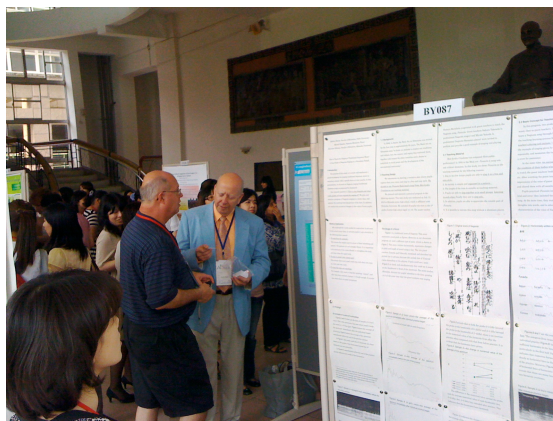


（↑台北府城門：麗正門と会場の台北市立教育大学）

しました。演奏された曲は台湾各地の景色を題材とした作品で、その美しい景色を収録した映像とともに紹介され、時間が許せばぜひ訪れてみたいと思うような、台湾の魅力を私たち参加者に強く印象づけるパフォーマンスでした。また期間中には、地元の子供たちによるコーラスや太鼓、リコーダー・オーケストラなどの演奏も披露され、台湾の音楽教育の質の高さを実感することができました。

さて今回、私は千葉大学の本多佐保美先生とポスター発表を行ってきました。

ポスター・セッションでは、開会式やコンサートが行なわれたホールのロビーが会場となりましたが、大変暑い中、エアコンの無い場所であったにもかかわらず、多くの参加者が熱心に発表を見に来ていました。私たちは、中学校における長唄の歌唱教材を用いた授業について発表しましたが、質問に来た参加者の皆さんと、実際にその教材と一緒に歌ったり、iPadに入れて持参したビデオで、授業実践の様子を見てもらったりするなどしました。参加者からは「興味深い」との感想を多く頂きました。



（↑ポスター・セッションの会場）

一方、口頭発表では、話し方やプレゼンテーションの仕方なども様々なスタイルが見られ、多くの刺激を受けました。日本の学会では PowerPoint を使用するケースがほとんどですが、Flash を使用した発表も、いくつか見られました。また、G. F. Welch 氏による基調講演は、内容が刺激的であるだけでなく、プレゼンテーションとして聴衆を引き込む大変魅力的なもので、研究のアウトプットの仕方の重要性について、我々も多くを学ぶべきではないかと感じました。いずれの発表会場も活発な議論で盛り上がり、外の暑さにも勝るとも劣らないほどヒートアップしながらも、情報交換の場を楽しむという雰囲気にあふれていて、研究の成果の共有がどれほど意義深いものであり、また、それこそが研究の醍醐味でもあるのだ、ということを実感する機会となりました。

なお、私達の発表については、ONKAN ウェブネットの助成研究「日本の伝統的歌唱研究会」のページにレポートを掲載しました（<http://onkan-web.net/document/general/josei/>）。ご覧頂ければ幸いです。

2-2 APSMER 2011で発表して

水崎 誠（東京学芸大学）

私がはじめて学会発表をしたのは、2001年の日本音楽教育学会（中国地区例会）である。その10年後にあたる今年（2011年）、はじめて国際学会で発表をした。APSMER2011である。東京から台湾に向かう飛行機の中では、「不安と緊張」もあったが、それ以上に「精一杯やろう」という思いであった。語学力に不安を抱えながらも発表を決心したのは、「自らの研究をもっと高めたい」という強い思いからであった。

私は「Investigation of Young Japanese Children's Singing in Unison」のタイトルで、口頭発表をした。この研究は、一斉歌唱場面における個々の歌声について検討したものである。幼児一人ひとりにヘッドセットマイクをつけて個々の歌声を録音し、同時にクラス全体の歌声も録音し、「個」と「クラス」の歌声を比較したものである。クラス全体を聞くと「よく歌えている」と評定されても、クラスの中には「歌っていない子」や「音高が不安定な子」もいるという実践現場で生じうる現象を、具体的にデータで示した。発表時では実際の歌声を流したが、それに対するフロアーの反応は、想像以上であった。「interesting」なデータとして受け入れられたのだ（発表後すぐに「もう少し音源を聞かせてください」と言われたほどである）。20分の発表で、声も手も震えながらなんとか終わることができた。問題は質疑応答である。質問が次から次へときて、ここでの質疑応答の活発さは、日本の学会以上であると感じた。特に、アジアの若い女性研究者の熱心な質問ぶりには驚いた。私の語学力不足を見抜いて、なんとか日本語で質問しようとするほどである。質問すべてには答えることができず、また内容そのものは十分に答えることができるものであっただけに、悔しい思いをした。「語学力の向上」を今後の課題として痛感したものの、自らの研究が海外の研究者に受け入れられたことを実感でき、また Graham F. Welch 教授をはじめ著名な研究者の前で発表できたことは貴重な体験であった。発表して本当に良かったと思う。

発表以外での学びは、3点にまとめられる。第1点は、アジアの研究者のハングリー精神である。私よりも若い研究者が巧みな英語で堂々と発表をしている姿には、正直言って驚いた。また彼らに研究内容を聞けば、詳細に自らの研究を説明できる。その姿には研究者としての自立も感じた。さかんに名刺を交換し、研究ネットワークを広げている姿には、学ぶべき点が多くあった。第2点は、多くの音声データを見聞きできたことである。今回の学会において、刺激音源や分析音声データを用いた発表が多いと感じた。音楽教育学研究は、文字だけでは伝えられない多くの情報がある。実際の音声データを見聞きできたことは、今後の研究にとって大きな収穫であった。第3点は、日本人の先輩先生方の活躍ぶりである。私は、今田匡彦先生、小川容子先生、阪井恵先生、筒石賢昭先生の口頭発表を聞いた。最新の研究を発表し、流暢な英語で質問に答えている姿には、日本人の一人として素直にうれしかった。「先輩方を目指してもっと頑張ろう」と思った次第である。

APSMERに参加してみて思ったのが、日本人若手研究者の少なさである。近年の日本音楽教育学会における研究数の増加と質の向上を知っているだけに、残念に思った。特に大学院生にとっては、参加するだけでも大きな刺激になると思う。おそらく自らの研究の視点がワールドワイドに広がるきっかけになるだろう。最後に、発表に際しご助言をいただいた日本人の先生方に、また学会運営に携わったすべての方に心から感謝する次第である。

訂正のお知らせ

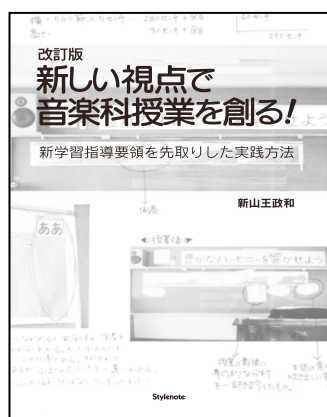
ニュースレター44号の【4-3 編集委員会からの報告】
音楽教育実践ジャーナル Vol.9 no.2 の特集テーマは、
（誤）『音楽の授業に果たす授業の役割』
（正）『音楽の授業に果たす教科書の役割』です。



3 新刊紹介

3-1 改訂版 新しい視点で音楽科授業を創る！新学習指導要領を先取りした実践方法

新山王 政和



本書は、もともと別々に書いた原稿を、ご援助を頂いて筆者の現職講習会テキスト用に整理したものです。そのため同じような文章が何度も現れることもあります。それだけ強調したいのだと受けとめていただければ幸いです。大切なことは何度も言いたい、書きたい、そして伝えたい。このように繰り返すことの大切さとは、私達が“音楽する”ときに求められるものと同じです。それでは筆者の「思い」と内容について、本書から拾って紹介させていただきます。

音楽を、音による創造活動の一つと考えている筆者の中には、いつも次の言葉が響いています。「創造とは、制約の中で自己の表現を工夫することである」。これは、独りよがりでありたい放題だけの音楽では一部の人からの感動を得ることはできても、多くの人々から

支持される普遍的な音楽には結びつかない、ということを示唆しています。音を通じて自己を主張するだけでなく、より多くの人に受け入れられる音楽の普遍性を伝えることは、私達の責務の一つでしょう。もう一つ大切にしている言葉があります。「創造とは統制美とそこからの変化である」。これは型を身につけマスターすることの大切さと、それを基にしてバリエーションを工夫することの難しさを表したものだと思います。制約や型をより大切に作るヨーロッパ音楽と、それを表には出さない日本音楽やアジア音楽。しかし、永きに亘り大切にされ磨き上げられてきた“なにか”を学び身につけなければ、多くの人々に受け入れて貰うことも聴き手の心を動かすことも難しい、この意味においては地域性やジャンルを超えて相通じるものがあるでしょう。以下は本書の内容です。初版で意外に人気だったコラムにも新たな話題を加えています。(末尾の「*」は改訂版で追加したものです。初版より 40 頁増えました！)

- ① イメージングを手掛かりに生徒の主体的聴取をめざした能動型鑑賞授業の模索
- ② グループダイナミクスを活かしたイメージングを通して音楽表現を創り上げる活動の模索
- ③ ユビキタス化された社会における音楽の基礎・基本の力の問い直し (1) & (2)
- ④ 聴取の意識を音の羅列から意味のある音の結びつきへ転換させる能動型鑑賞活動への試み
- ⑤ 音楽の諸要素へ耳を傾け、根拠や理由を付して考え、それを他者と共有する音楽活動
- ⑥ 音楽の諸要素と向き合わせることをめざした新しい視点からの学習指導案モデルの開発
- ⑦ 音楽専門の教師が担う学校内音楽活動における中核的な役割とコーディネーターとしての責任
- ⑧ 音楽の諸要素へ耳を傾け、それを聴き取る音楽活動の試み
- ⑨ 今この時代だからこそクリエイティブな音楽活動の実践を！
- ⑩ 過疎地小規模校において地道に続けられてきた全校音楽に見る音楽教育の原点
- ⑪ 学習指導要領移行期に音楽科が直面する課題と今後の授業研究の方向性*
- ⑫ 資料：小学校音楽科学習指導案のモデル&中学校音楽科学習指導案のモデル*、鑑賞用評価シートのサンプル、中学校歌唱活動用シートのサンプル*、指導要領比較表
- ⑬ コラム：「pseudo なもので満足するのか real なものを追求するのか」「雑想 pseudo と real その式」「オーケストラプレイヤーに必要ないくつかの心がけ」「一過性のブームで終わらせないために」「音と音楽そして本物とまがい物」「休みがこわい!?」「指がよく動いて大きい声で歌えれば音楽の先生なの?」「再表現芸術としての音楽と言語化・言語活動」「今後の音楽科授業研究に求められるものとは」「部活不人気の時代の中で」「小学校で音や音楽を形づくる要素を教えることとは*」「音楽は点で始まるのか点で終わるのか〜はねる文化ととめの文化*」
- ⑭ 附属学校の日常の実践紹介とコラム「他人が持っていないものを見せびらかすのはやめよう*」

(株)スタイルノート, B5 サイズ 総数 231 頁
改訂版 2011 年 8 月発行(初版 2010 年 5 月), 2000 円

3-2 子どものうた弾き歌い ベスト 50 注釈付き

深見 友紀子（編著）& 赤羽 美希（編曲／制作協力）

ピアノとうたを一度に演奏しなければならない“ピアノ弾き歌い”。とりわけピアノの初心者の場合、楽譜を読むことから始まって、ピアノを両手で弾く段階に至るまでに一苦勞、さらにそれと同時にうたを歌うのは至難の業です。「歌い方や曲想についてもっと丁寧に教えたいのに、レッスン時間が足りない！」「レッスンでは先生から指づかいやリズムの間違いを注意されるだけ。あっという間にレッスン時間が過ぎてしまい、なかなか上達しない！」

本書は、このように少ないレッスン時間の中で学生の演奏能力を高めるために苦勞しておられる先生方と、弾き歌いのコツがわからなくて困っている学生の皆さんのために企画されました。



本書の特徴

- ☆厳選 50 曲—歌い継ぎたい楽曲、季節のうた、生活のうた、行事のうたを選びました。
- ☆難易度別—グレード A から D まで難易度別に楽曲を分類しました。A から段階を追って練習できます。
- ☆必要な箇所には指番号—初心者は曲の始めの指づかいから迷ってしまいます。スムーズに自習できるように必要十分な指番号を記入しました。
- ☆画期的な 2 色版—各曲の演奏に必要な注釈を、目に優しいブルーで書き込みました。
- ☆各曲にコラム—「より良い演奏のためのアドバイス」で全体の曲想や演奏上のポイントを把握できます。
- ☆楽しい付録の楽曲—ベスト 50 曲に加えて、子どもたちに人気の 5 曲を特別にアレンジして掲載しました。初心者が演奏しやすいようにさまざまな工夫を施しつつ、かつ上級者が堪能できる内容です。
- ☆便利な曲名索引と音楽記号表—本書に出てくる音楽記号、奏法などに関する解説を載せました。索引は選曲の目安に、記号表は楽典的な知識の補強にお使いください。

注釈とは・・・以下をご覧ください。▼

「演奏上のポイントや注意点がこれほど沢山書き込まれていると、先生は要らないかも・・・」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。学生たちがこの注釈を読み、十分に自習してこそ、実際のレッスンはより有意義なものになり、対面のレッスンで伝えるべきこと＝紙では伝えられない事柄が明らかになるのではないかと思います。

どうぞ本書を日々の指導に活用してください。京都女子大学児童学科における授業実践から生まれた本書を‘たたき台’に、ピアノ弾き歌いの指導について活発な意見交換が行われ、研究の輪が広がることを願っています。

伴奏の音を右手・左手でどう取るか／テンポ感への注意／
「さん ハイ」～子どもへ歌の始まりを知らせるかけ声／
間違いやすい歌詞への注意／音階奏の指づかい／
音部記号への注意／8分音符の弾き方・右手から左手への
受け渡し方（フレージング）／情景を思い浮かべた歌唱表
現への注意／口の形に意識を向ける“口ポカン”マーク／
目元の表情に意識を向ける“目デカラ”マーク

音楽之友社
A4 版、2 色刷り 104 頁
定価 2,730 円（本体 2,600 円＋税）
ISBN 978-4-276-82072-2

4 報告

4-1 平成 23 年度第 2 回常任理事会報告

日 時：平成 23 年 7 月 10 日（日）14：00～17：30

場 所：立教大学 12 号館 第 3 会議室

出席者：加藤、有本、今川、今田、小川、奥、島崎（記録）、杉江、坪能、南

【会務報告】

加藤会長の挨拶に続いて、今川事務局長から会議資料の確認及び 5 月 15 日の第 1 回常任理事会以降の会務報告が行われた。選挙（再選挙を含む）関連の発送業務等、6 月 17 日の第 42 回大会発表申込締め切りと申込件数（103 件）、『音楽教育学』第 41 巻第 1 号とニュースレター No.44 の発送終了、第 20 期会長・理事選挙（再選挙地区以外）の開票作業終了などについての報告がなされた。

会務報告 <平成 23 年 5 月 15 日以降>

5 月 15 日	平成 23 年度第 1 回常任理事会・理事会
6 月 11 日	選挙関係書類発送
6 月 17 日	第 42 回大会発表申込締切
6 月 26 日	音楽教育学 第 41 巻 第 1 号 発送、ニュースレター No.44 発送
6 月 27 日	再選挙関係書類発送
7 月 2 日	第 20 期会長・理事選挙開票
7 月 10 日	平成 23 年度第 2 回常任理事会

【審議事項】

1 日本音楽教育学会第 42 回大会（奈良大会）について

(1) 日程および会場（奈良教育大学高畑キャンパス）等の確認

奥・杉江両理事より奈良大会の日程および各会場についての詳細な説明があり、それらを踏まえて以下のように決定した。大会の正式名称は、「日本音楽教育学会第 42 回大会 奈良大会」とする。出展団体による新機材等説明会を 2 日め（10 月 23 日）11：30～12：30 に組み込む。学会本部用に、学会本部控室を準備する。また、大会申込ハガキの簡略化が提案され、その方向での検討がなされた。さらに、大会前日に開催される次回の編集委員会、常任理事会、理事会の開催時間を決定した。（編集委員会 10：30～14：00、常任理事会 14：00～15：30、理事会 15：30～18：00）。この他、実行委員会が独自に設定した被災地の東北 3 県からの臨時会員の対する大会参加費免除措置の件、観光用パンフレットの配布の件などについての報告があった。

(2) プログラムおよび大会研究発表者の部屋割や司会者

企画担当の南理事と今田理事が作成した研究発表の部屋割や司会者（案）については、第 2 回常任理事会終了後、直ちに本学会ホームページに暫定版プログラムとして掲載し、1 週間の確認期間を経てから正式なプログラムとして決定することとした。また今川事務局長から、暫定版プログラム作成過程で気づいた問題点について報告がなされた。

(3) 賛助会員の確認

資料によって賛助会員の確認を行うと共に、今川事務局長によって現在のところ奈良大会のプログラム広告の申し出が賛助会員中 4 団体に留まっていることが報告された。またこれに関連して名誉会員の再確認の必要性が確認された。

2 平成 23 年度補正予算案および平成 24 年度予算案

両予算案は、既に 5 月の第 1 回常任理事会および理事会で承認されているが、奈良大会総会に向けて、例年どおり 6 月 30 日付け会員数（1,462 名）による予算案を再検討した。会計担当の島崎理事によって前回理事会の時より正会員数が 36 名減であることや 2 年間会費未納者が 100 名に達していることが報告された。また平成 23 年度補正予算案については、メール会議で決定した国際交流基金の設定と本基金への 10 万円の計上の他に、会員名簿作成費について前回の 80 万円から見積もりに合わせた 50 万円への減額が提案された。平成 24 年度予算案については、平成 24 年度に日韓ワークショップが開催される可能性が高いこと

から国際交流基金への20万円の積立が提案された。常任理事会ではこの二つの提案について了承した。

3 日韓ワークショップについて

国際交流委員会が提出した2月19日付の日韓セミナー開催案について、国際交流委員会から正式な常任理事会見解を求められ、これまでの経緯を踏まえこれを検討した。その結果、国際交流委員会には、常任理事会より次のことを依頼することにした。

- 本学会が実施してきたワークショップレベルの日韓ワークショップの企画案の作成を依頼する。2月19日付の日韓セミナー開催案よりもかなりの縮小版にする。
- 今回の日韓ワークショップを進める中で、今後の日韓両学会の無理のない交流の仕方について検討する。同時に2003年の日韓音楽教育学会交流規定の見直しを行う。
- 2012年度日韓ワークショップに向けて国際交流委員会のメンバーを中心とする運営委員会（実行委員会）を立ち上げる。国際交流委員会は、2012年に新メンバーに改定されるが、2011年度は、副会長、国際交流委員から2名、開催地区（東京）の代表1名の4名で運営委員会を構成し、期を跨いで運営委員会には2012年度新国際交流委員から3名が加わる方向で、継続して日韓ワークショップの準備を押しすすめる。

4 新入会員および退会者について

今川事務局長から一覧表にもとづいて、正会員（23名）・学生会員（1名）の新入会員の報告と55名の退会者の報告があり、これを承認した。（関連記事を11頁に掲載）。

5 その他

- (1) 今川事務局長から、大会プログラム発送の際に、昨年同様「研究発表にあたってのお願い」のプリントを会員に送ることについての報告がなされた。
- (2) 今田理事から要望が出され、常任委員会企画のプロジェクト研究Ⅰの会員外パネリストへの謝金額と共に、プロジェクト研究Ⅱの会員外講演者への謝金額の検討を行い、内部規定に沿った謝金額に決定した。

【報告事項】

1 各委員会報告

(1) 編集委員会報告

奥理事より『音楽教育実践ジャーナル』17号の編集作業がほぼ終了していることや『音楽教育学』第41-2号に投稿論文が9本あり、8月12日の第2回編集委員会でこれらの採否を決定する予定などが報告された。

(2) 選挙管理委員会

永岡選挙管理委員長からの文書による報告を今川事務局長が説明した。6月6日に会長被選挙者名簿作成、各地区理事定数の算出、選挙関連書類の確認を行い、11日にはアルバイト5名を動員して6時間かけて封入作業と発送業務を終了した。6月17日に学会事務局から会員所属について問い合わせを受け、選挙管理委員会による会則、選挙公報のチェック、事務局による会員名簿の追跡調査が行われた。その結果、会員名簿の地区割りが一部会則と異なる分類になっていたことが判明し、再選挙についての会長判断を受けて、近畿、東海地区理事選挙の再選挙業務に入る。24・25の両日に封入、27日に発送業務を終了し、7月2日には再選挙実施地区以外の地区の理事選挙と会長選挙の開票作業を行う。結果は、7月16日の再選挙地区開票作業が終了してから報告するとのことであった。

(3) 学会賞審査委員会

加藤会長から学会賞の規定の改定に着手したことが報告され、メール会議および次回の第3回常任理事会における検討を経て、奈良大会総会で提案するという今後の手続きが確認された。

(4) 音楽文献目録委員会

文献目録担当の木間委員から本学会事務局に送られたメールを今川事務局長が委員に代わって報告した。6月18日に武蔵野音楽大学で行われた第148回委員会の主な議事内容は、

震災の影響で中止となった4月2日開催の本委員会で承認予定であった平成22年度決算と平成23年度予算について、メール会議を経た後の決議がなされたということであった。

(5) 倫理ワーキンググループ

第1次ワーキンググループに健康上の理由で継続担当が難しい委員がいるため、継続担当が可能な委員を含む第2次の新メンバーの候補者が報告された。また7月31日の委員会には奈良大会のプロジェクト研究Ⅱの講演者である徳本宏孝氏にも参加していただく予定であることが報告された。

(6) 音楽教育支援ポータルサイト

加藤会長から会員に限定した本ポータルサイトについては、東京芸術大学や東京学芸大学の参事が責任感をもって良く働いてくれていること、6月27日に本サイトをアップしたが、今のところまだ具体的な提案の申込みはないことなどが報告された。

2 神田ゼミナールの進捗状況について

小川理事から、現在、日程やタイムテーブルの検討や動線の確認を行っていることが報告されると共に、現時点での申込者がきわめて少ない状況のため、理事や常任理事には学生などに参加の呼びかけを依頼したいとの報告があった。

3 第43回大会について

加藤会長から第43回大会日程および開催場所の確認がなされた。すなわち2012年10月7・8日で会場は東京音楽大学。また6月8日に会長が会場大学への挨拶および会場確認を行ったことが報告された。併せて、会場校の東京音楽大学はデザイン性や設備などに優れた大変素晴らしい会場であることも報告された。

4 事務局の会員情報管理について

【報告事項】1の(2)に関連する今回の名簿管理システム上のミスについて、今川事務局長から説明があった。平成16年度に導入された会員情報の登録・管理用のPCソフト（アクセス）の地区登録参考リストの設定にミスがあったため、山梨県と三重県の会員の一部が誤って違う地区に登録された。今回、名簿作成のため会員に送った会員情報登録票の返送の際に、該当地区の会員から問い合わせがあり、初めてこのシステム上のミスを把握することができた。加藤会長からは、会員情報登録の仕方を検討することや名簿作成・管理体制の充実が不可欠であり、総務担当理事および参事がこれを担当すべきとの見解が示された。この件については、今後、十分に検討し改善を図ることを確認した。

5 その他

(1)今川事務局長から今後の予定の確認と同時に、事務局の夏季休業等についての報告があった。(8月8日～12日は開局時間の短縮、8月13日～21日は閉局。)

(2)第3回常任理事会および第2回理事会は、例年通り大会前日の10月21日に奈良教育大学にて開催する。時間は【審議事項】1の(2)の通り。

今後の予定

8月12日	平成23年度第2回編集委員会
8月28・29日	第11回音楽教育ゼミナール(神田ゼミナール)会場：共立女子大学
8月29日	音楽教育実践ジャーナル Vol.9. No.1 発送
	ニュースレター第45号発行、第42回大会プログラム発送
10月22日	第3回編集委員会、第3回常任理事会、第2回理事会
10月22～23日	第42回全国大会 会場：奈良教育大学
12月25(or 26)日	音楽教育学 第41巻第2号 発行、ニュースレター 第46号 発行
2月中旬	平成23年度第4回編集委員会、平成23年度第4回常任理事会
3月末日頃	音楽教育実践ジャーナル Vol.9. No.2 発行
	ニュースレター第47号発行、平成23年度会計決算

新入会員（平成 23 年 5 月 15 日以降）：23 名

会員番号	氏名	所属先	会員番号	氏名	所属先
3811	佐藤 歩	広島大学大学院(院生)	3823	羽田 咲子	宮崎大学大学院(院生)
3812	小林 恭子	目白大学	3824	渡山 志織	宮崎大学大学院(院生)
3813	長尾 和明	弘前大学大学院(院生)	3825	山本 千尋	広島大学大学院(院生)
3814	松村 洋一郎	東京理科大学 実践女子短期大学	3826	伊藤 謙一郎	東京工科大学
3815	星合 智美	高田短期大学	3827	山下 真由美	東京都立調布特別支援学校
3816	遠藤 好子	上越教育大学附属中学校	3828	加納 春弥	山口大学大学院(院生)
3817	杉原 歩	学生会員からの移行	3829	石田 久大	北海道教育大学旭川校
3818	高木 いずみ	島根大学大学院(院生)	3830	赤星 光江	東京学芸大学大学院(院生) 足立区立古千谷小学校
3819	丸山 慎	国立情報学研究所	3831	岩瀬 由佳	長崎純心大学
3820	田中 沙織	島根大学大学院(院生)	3832	甲斐 万里子	東京芸術大学大学院(院生)
3821	須藤 真地子	東京音楽大学大学院(院生)	3833	近藤 光江	川村学園女子大学
3822	北條 美香代	奈良教育大学			

【7 月 5 日現在 正会員数：1465 名 学生会員数：1 名】

4-2 役員選挙結果報告

選挙管理委員会委員長 永岡 都

第 20 期日本音楽教育学会会長選挙の結果を下記の通り報告いたします。

有権者数：1,313

当選者（得票数）	次点者（得票数）	総票数（票）	投票率（%）
加藤 富美子 (127)	坪能 由紀子 (29)	361	27.5

総投票者数 361 票（内 白票 11 無効 0）

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長 永岡 都

副委員長 中嶋 俊夫

委員 桐原 礼

” 鈴木 慎一郎

” 村上 康子

第20期日本音楽教育学会理事選挙の結果を下記の通り報告いたします。

有権者数：1,313

地 区	当選者		次点者	総票数 (人)	投票率 (%)
北海道	寺田貴雄		尾藤弥生	16/48	33.3
東 北	今田匡彦		降矢美彌子	25/77	32.5
関 東 ※1	阪井 恵	有本真紀	八木正一	150/552	27.2
	今川恭子	佐野 靖			
	本多佐保美	島崎篤子			
	山本幸正	水戸博道			
北 陸	伊野義博		後藤 丹	17/59	28.8
東 海 ※2	南 曜子	北山敦康	志民一成	38/124	30.6
近 畿 ※2	嶋田由美	安田 寛	村尾忠廣	44/177	24.9
	奥 忍				
中国四国	吉富功修	小川容子	権藤敦子	54/163	33.1
			藤井浩基		
九 州	菅 裕	福井昭史	平井建二	24/113	21.2

※1 細則第5章第22条「理事当選者に会長当選者が含まれている場合は、会長当選者の所属地区の次点者を理事当選者とする」に従って次点者を当選者とした。

※2 東海地区と近畿地区については再選挙の結果である。

総投票者数 368票 (内 白票 10 無効 0) 投票率 28.0%

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長 永岡 都

副委員長 中嶋 俊夫

委員 桐原 礼

” 鈴木 慎一朗

” 村上 康子

4-3 第20期日本音楽教育学会東海地区・近畿地区理事再選挙に関する報告

選挙管理委員会委員長 永岡 都

過日の第20期日本音楽教育学会理事選挙において、東海地区・近畿地区の再選挙が実施されることになった経緯についてご報告いたします。

6月11日付にて会員各位に送付いたしました理事被選挙人名簿のうち、東海地区と近畿地区の名簿に誤りがありました。本来東海地区の名簿に記載されるべき三重県の方々のお名前が近畿地区の名簿に記載されておりました。この件、複数の会員の方からご指摘を受けて調査いたしました結果、会員登録に使用しておりましたソフトウェアの仕様に会則と異なる部

分があり、理事被選挙人名簿作成のベースとなる会員名簿の地区割りが過去数年にわたって誤っていたことが原因と判明しました。

これを受けて、日本音楽教育学会事務局では直ちに三重県の会員の所属先を会則通り東海地区に改め、さらに「近畿、東海地区の理事選挙のみ再選挙を行う」との会長判断を受けて、選挙管理委員会が6月27日付で「近畿地区・東海地区理事再選挙」の書類を送付、7月11日を締切日、7月16日を開票日として再選挙を実施いたしました。選挙結果については前頁にご報告申し上げた通りです。

東海地区・近畿地区の会員の皆様には、たいへんご迷惑をおかけしたにもかかわらず、再選挙にご理解とご協力をいただきましてまことにありがとうございます。この場を借りまして篤く御礼申し上げます。

4-4 第20期理事選挙の一部再選挙について

会長 加藤 富美子

選挙管理委員長からの報告にありますように、このたびの第20期理事選挙では、東海地区、近畿地区の理事選挙で再投票という事態が生じました。6月11日付で選挙管理委員会から会員に送付された第20期理事被選挙人名簿において、三重県の会員がすべて近畿地区（本来は東海地区）に記載されていたことが、会員からの連絡によりわかりました。

直ちに、選挙管理委員会ならびに事務局により原因を調査したところ、名簿確定の基となる事務局のコンピュータ上の会員情報登録ソフトにおいて、本学会の細則で定められた地区割りと異なる地区割りがなされていたことが判明しました。

選挙管理委員会ならびに事務局は、今回の選挙への対処について、先般全会員に送った「会員情報登録票」などの資料をもとに鋭意検討を行ない、それを受けて、会長判断のもと三重県会員が関わる近畿地区、東海地区の2地区の理事選挙を再投票とすることにいたしました。

コンピュータ上の会員情報登録ソフトでの地区登録の誤りは、このソフトを導入した平成16年より生じていたとみられます。学会活動の根幹に関わる会員情報管理の長年にわたる不備につきまして、事務局を代表してここにお詫びいたします。

今後、このようなことが起きないように、事務局体制をしっかりと構築していく所存です。

5 お知らせ

5-1 日本音楽教育学会第42回大会（奈良大会）の参加申込みについて

1. 同封のハガキ「日本音楽教育学会第42回大会出欠回答」に必要事項をご記入の上、9月30日（金）必着でご投函ください。なお、総会に欠席される方は必ず委任状に必要事項をご記入ください。
2. 同封の郵便振替「払込取扱票」に必要事項をご記入の上、10月11日までにお振込みください（期日厳守）。振込による大会参加費は以下の通りです。大会当日に現金で支払われる場合は（ ）内の金額となります。

正会員参加費	: 4,000 円（当日払いの場合：4,500 円）
学生会員参加費	: 一日参加 2,000 円 両日参加 2,500 円
懇親会費	: 4,000 円
22 日お弁当+お茶	: 600 円
23 日お弁当+お茶	: 600 円

※振込み期日（10月11日）を過ぎますと、当日払いの参加費となります。

※会員以外の方（臨時会員）は、参加費の振込先が異なります。

◎大会の最新情報は大会専用ホームページに掲載しております。

👉 <http://42thconference.jshcm.com/>

5-2 名簿発行に向けてお願い

事務局長 今川 恭子

かねてよりお知らせしておりますように、今年度は名簿を作成、発行いたします。会員の個人情報を適切に取り扱うために、事務局からは本年3月31日に「会員情報登録票」をお送りし、その確認と返送をお願いしております。すでに返送の締め切り（平成23年4月30日）を過ぎておりますが、まだお手元にお持ちの方はできるだけ速やかにご返送くださいますようお願いいたします。「会員情報登録票」が届いていない、あるいは紛失された場合も、事務局までご連絡ください。

名簿は、今回のお伺いによって確認させていただいた情報をもとに作成されます。「非掲載」を希望された項目については空欄となりますが、回答がない場合には事務局登録情報の内「原則公開」の項目（氏名・会員番号・所属地区・所属先・登録住所）を記載することになります。これについては、平成23年3月31日付常任理事会文書「平成23年度名簿発行ならびに選挙台帳作成に向けてのお願い」（『音楽教育実践ジャーナル』Vol.8-No.2に同封）をご参照ください。なお、この文書は、学会ホームページでもご覧になれます。

名簿発行に関するお問い合わせやご要望は、Eメールまたはファックスにて事務局までお願いいたします。

6 事務局より

6-1 お知らせ

- 年会費未納の方には、「払込取扱票」を同封致しました。なるべく早くお振込みください。
- 諸変更届はお早めに学会事務局へFAXまたはE-mailでお知らせください。
- 8月中は、事務局開局時間が一部変わります。下記をご確認ください。

◆ 事務局開局時間

8月 8日～12日 月・火・金 9:00～12:00

8月 15日～19日 閉局期間

この間のご用件はE-mail (onkyoiku@remus.dti.ne.jp) へ



.....【編集後記】.....

ニュースレター45号をお届けします。ますますバラエティに富んできた誌面から、会員の方々の国内外での活躍の様子がよく伝わってくるのではないのでしょうか。また理事会をはじめ各委員会からのお知らせには、本学会に関わるホットニュースがたくさん詰め込まれています。多彩なメンバーが多岐にわたる活動を展開している本学会の動向が、よくお分かりいただけたと思います。たくさんの仕事に真摯に取り組んでくださっている参事を含めた委員諸氏に感謝！！

坪能由紀子・小川容子 記

.....

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL&FAX：042-381-3562 E-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・火・金

開局時間：月（9:00～13:00）火・金（9:00～15:00）